





NICUの赤ちゃんの生活とご家族のかかわり

あくまで目安ですので、赤ちゃんの状態により様子は異なります。
また、ご家族のかかわりについても施設により異なることがあります。
気になることはNICUスタッフにお尋ねください。

修正週数	赤ちゃんの様子	ご家族のかかわり
22週	<p>お母さんのお腹に近い環境で1日のほとんどを寝てすごします</p> <p>体温調整を助けるために保育器の中にいます 安心してすごせるように、周りをタオルやクッションで包み込むことがあります</p> <p>耳が聞こえ始めています</p> <p>まだ、おくちからミルクを飲むことはできません</p> 	<p>「そばにいる」「そっと触れる」 「写真など成長の記録」</p> <p>赤ちゃんががんばっている姿を見守りましょう 大きな声や音にびっくりします。 保育器の窓の開け閉めにも配慮し、優しく静かに話かけましょう。</p> <p>「優しく話しかける」</p> <p>お母さん、お父さんの声を聴くと、赤ちゃんは安心します。発達にも良い影響を与えますので、ゆっくり優しく声をかけましょう。</p> <p>「母乳を運ぶ」</p> <p>おなかまで入っているチューブから母乳やミルクを注入したり、点滴で栄養を補っています。 母乳を浸した綿棒をなめさせてあげることができます。 赤ちゃんを感染症から守り、母乳のにおいや味で赤ちゃんを安心させます。</p>
28週 ～ 34週 頃	<p>光を感じるようになります 少しずつ、目を開けている時間が長くなります</p> <p>体温が少しずつ安定します 皮膚の感覚もできあがってきます</p>	<p>保育器の外で抱っこ 「ホールディング」</p> <p>手のひらで赤ちゃんを包み込んであげましょう。 赤ちゃんは、保育器の中で抱っこされているようなぬくもりと安心感を感じることができます。</p>

赤ちゃんの成長には、個人差があります。
成長がゆっくりなこともあります、あせらずに見守ってあげましょう

修正週数	赤ちゃんの様子	ご家族のかかわり
	<p>起きている時間がはっきりわかるようになります</p> <p>泣いている姿をみることも増えてきます</p>	<p>「カンガルークア」</p> <div data-bbox="424 320 979 575" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>お母さんやお父さんの胸のあたりで、赤ちゃんを包むようにし、素肌が触れ合うように抱きしめる「カンガルークア」ができるようになります。赤ちゃんが安心し、体温が保たれる、呼吸が安定する効果があります。また、親子のきずなが深まり、母乳分泌が促される効果があります。</p> </div> 
<p>34週 ～ 36週 頃</p>	<p>保育器を卒業します コットに出ることができます</p> <p>ミルクの時間になると、少しずつ泣いて起きることが増えてきます</p> <p>泣いて意思表示をすることも増えてきます</p> <p>おくちから少しずつミルクが飲めるようになります</p>	<p>「抱っこ」「おむつ替え」「沐浴」</p> <div data-bbox="424 706 979 837" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>抱っこ、おむつ替え、沐浴ができるようになります。お風呂は、お母さんのおなかの中のように、赤ちゃんは安心します</p> </div> 
		<p>「母乳やミルク」</p> <div data-bbox="424 931 979 1062" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>母乳やミルクを飲めるようになります。ゆっくりと赤ちゃんのペースで飲む量を増やしていきましょう。</p> </div>
<p>37週</p> <p>40週</p>	<p>だんだん起きている時間が長くなります</p> 	<p>「おうちに帰る準備」</p> <div data-bbox="424 1164 979 1332" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>お母さん、お父さんが中心になって、赤ちゃんのお世話をしましょう。自宅の生活をイメージし、退院後に必要なものを準備しましょう。心配なことがあれば、スタッフに相談しましょう。</p> </div>

お口の健康について

歯の予防処置

低体重で生まれた赤ちゃんは、歯の生える時期が遅い「萌出遅延(ほうしゅつちえん)」や歯が2本くっついて生える「癒合歯(ゆごうし)」、表面が着色したり、でこぼこ、ざらざらしている「エナメル質形成不全」になりやすい傾向があり、これらの状態は、むし歯になりやすく注意が必要です。

また、口や顎が小さいため、歯並びが悪くなったり、うまく噛めず、栄養摂取に影響が出たり、口を大きく開けづらいので歯ブラシや、歯科用器具が入りにくいこともあります。かかりつけの歯科医院を決め、定期的な健診、口腔清掃指導やフッ化物塗布などの予防処置を受けましょう。

歯が生えているのに気づいたら歯磨きを始めましょう。普段はフッ化物配合子ども用歯磨剤を米粒程度使用し、歯みがきの後はティッシュなどで歯磨剤を軽く拭き取ってあげてください。

小児科医より一言

食べたり、しゃべったりでお困りの時は、お口(歯や舌)のことに
関して相談に来てください。



Memo

メモのほかお子さんの手形やお絵かきなど、ご自由にお使いください。

